

## はじめに

揖斐郡読書感想文推進委員会 顧問 竹中 健二

「読書感想文が一分で書けてしまう時代に突入」という衝撃的な見出しが、夏休み前の新聞紙面を飾りました。人々のよりよい生活を生み出すために、IT関連事業は技術革新を進めています。その成果の一つとして、与えられたいくつもの条件に合わせて自動的に文章を作成することができる「生成AI」が完成し、誰でも自由に使えるようになったのです。これにより、格段に仕事の効率がアップする職種も多くあるでしょう。生活しやすくなる人もあるでしょう。便利な世の中になったものです。

それにしても、この技術を「読書感想文」に利用しようと思いつくとは……。よほど、読書感想文を書くことを苦手と思った大人がたくさんいたのですね。なんでも、指定した年齢の児童生徒にあつた表現力や言語能力で、指定した文字数で感想文を完成させてくれるそうです。でも、これは読書感想文といえるのでしょうか。

読書感想文は、文字通り「読書」した「感想」の「文(章)」です。まずもって、読書がなければなりません。本を読む行為、本を讀んで心動かされた経験が必要です。次に「感想」が必要です。本を讀んだときに、心に浮かんだ考えや思いが「感想」です。この感想は、人によって違いがあります。同じ文章を讀んでも、心に浮かんだ考えや思いは違います。それは、私たちが五感を通じて、また周りの人たちや先哲から学んだ「今までの経験」をもとに感想をもつからです。ここにAIとの違いがあります。

AIは、過去に書かれたものの膨大なデータから、キーワードにふさわしい言葉や表現を見つけ出し、パズルのように、適切な流れになるように並べていきます。たとえ、設定した年齢にふさわしく、内容的にわかりやすく表現されていても、やはりそれは、読書感想文とはいえません。読書感想文は、読書を通して心を揺り動かされ、自分の言葉で表現するという人間的な営みの成果なのですから。

今年度、揖斐郡内で読書感想文に取り組んだ児童生徒は2133人との報告を受けました。多くの子どもたちが本に親しみ、そこで感じた自分の思いを表現することに挑戦してくれていることを、とてもうれしく思います。自分の考えをもち表現することや、挑戦することは、これから先の未来を生き抜くために、とても大切な力です。子どもたちは、読書感想文を書くことを通して、国語や言葉の力だけでなく、人として大切な力も育んでいるのです。この読書感想文集には、厳正な審査のもと、文章構成・内容・表現等において優れていると認められ、揖斐郡代表として岐阜県読書感想文コンクールに推薦した作品が載せられています。ぜひ、本冊子を手に取り、子どもたちの瑞々しい感性や鋭い主張、心温まる思いに触れていただけたら幸いです。

最後になりますが、審査に当たりお世話になった、揖斐郡内各校の先生方、各校代表の読書感想文推進委員、揖斐郡教育研修センターの皆様にお礼を申し上げます。巻頭言といたします。ありがとうございました。

令和五年十月

令和五年度 揖斐郡読書感想文コンクール 優秀作品集

〈 目次 〉

Ⅰ はじめに 1

Ⅱ 目次 2

Ⅲ 令和五年度 揖斐郡読書感想文コンクール実施要項 3

Ⅳ 令和五年度 揖斐郡読書感想文応募数 4

Ⅴ 各部門特選作品 作品と講評

【小学校低学年の部】

◆自由図書部門

むだづかいがくれるもの 大和小学校二年 細野 瑛菜 5

◇課題図書部門

けんかのたねって なんだろう 大野小学校一年 田中あやめ 6

「よるのあいだに…」を読んで 気づいたまわりのささえ

南小学校二年 三間 匠馬 7

【小学校中学年の部】

◆自由図書部門

ぼくもみんなもひとりぼっち

南小学校三年 栗野 碧海 8

「神戸のかべ」は大震災のかたりべ

春日小学校四年 小椋 風花 9



◇課題図書部門

きゅう食がもつとすきになった

清水小学校三年 加勢 悠真 10

【小学校高学年の部】

◆自由図書部門

過去と未来をつなぐ今 清水小学校五年 宮島 百花 11

10

毎日を楽しくするために 北方小学校六年 河瀬 芽依 12

◇課題図書部門

努力の先にあるもの 養基小学校六年 久保田丈尊 13

【中学校の部】

◆自由図書部門

人と関わることの大切さ 谷汲中学校一年 植山あおい 14

僕は「ぼく」でいたい 池田中学校一年 増田 温 16

私の欠けているところ 池田中学校三年 鈴木 花音 18

Ⅵ 読書感想文審査を終えて

(表紙 絵 清水小三年 森田 絃暉)

(敬称略)

20



## 令和五年度

### 揖斐郡読書感想文コンクール実施要項

#### 七. 審査について

(1) 審査は、小学校低・中・高学年、中学校の四部門に分け、さらに部門別、学年別に行う。

(2) 賞の種類及び点数

①特選（入選者の中から） ※揖斐郡の代表として県へ送付する。

小学校低学年の部・・・自由・課題両部門各み 計二点

小学校中学年の部・・・自由・課題両部門各み 計二点

小学校高学年の部・・・自由・課題両部門各み 計二点

中学校の部・・・自由・課題両部門各み 計二点

②入選・・・各学年 自由・課題ごとに全体数の三割合程度

③佳作・・・入選までいかないが、よい作品を認める。

#### 八. 審査の窓

① 読書の喜びや楽しみを感じることが出来る。

② 読書による自己の変容を伺うことができる。

③ 学年の発達段階に応じた考え方や感じ方をしている。

・小学校低・中学年では、読んで楽しい作品でありたい。

・小学校高学年では、広い視野から作品を捉えたものでありたい。

・中学生は、自分の体験を土台にして批評を加えたり、共感をしたりしている作品が望ましい。

④ 自分の言葉で生き生きと表現している。

⑤ 自分の意見や感想を素直に述べ、読み手によく分かる。

⑥ 図書の選択が、発達段階に適している。

⑦ 部分的でなく、作品全体の感想になっている。

⑧ 応募規定に達している。

#### 九. その他

作品の応募に際して、十分に指導しておきたいこと

・文章の構成はよいか。

・文章のねじれはないか。

・誤字・脱字はないか。

・文字は丁寧に読みやすいか。

#### 十. 作品集

優秀作品については、「読書感想文優秀作品集 第二十八集」としてまとめる。

一. 名称 揖斐郡読書感想文コンクール

二. 目的 学校図書館における読書指導の充実振興と児童・生徒の健全かつ豊かな心の育成と読書能力の向上に資する。

三. 主催 揖斐郡教育会

揖斐郡教育研究会・読書感想文推進委員会

四. 期日と会場と審査方法

地区審査・・・令和五年八月下旬 午後二時より午後四時四十五分まで

各地区理事が設定した場所で地区ごとの図書館主任が、審査委員会を構成して行う。

郡審査・・・令和五年九月四日 午後一時より午後四時四十五分まで

揖斐郡教育研修センターにて、揖斐郡読書感想文推進委員会役員で審査委員会を構成して行う。

#### 五. 応募規定

◆用紙 原稿用紙を使用する。

◆出品作品

・自由図書の部・・・小説、童話、民話、戯曲、詩歌、伝記、ノンフィクションなど 課題図書以外

・課題図書の部・・・課題図書

◆字数（題名、学校名、氏名は除く）

・小学校低学年・・・八百字以内

・小学校中・高学年・・・千二百字以内

・中学校・・・二千字以内

◆作品には、必ず応募票をつける。

◆各学校で部門別に応募点数を把握し、報告する。

#### 六. 審査委員

委員長・・・揖斐郡小中学校読書感想文推進委員会顧問

副委員長・・・揖斐郡小中学校読書感想文推進委員会主任

委員・・・揖斐郡小中学校読書感想文推進委員会役員、地区理事

令和5年度揖斐郡読書感想文 郡出品数・入賞者数					
		郡への出品数	特選	入選	佳作
小学校・低	自由	20	1	4	15
小学校・低	課題	21	2	5	14
	1年自由	13	0	3	10
	1年課題	8	1	2	5
	2年自由	7	1	1	5
	2年課題	13	1	3	9
小学校・中	自由	17	2	3	12
小学校・中	課題	20	1	6	13
	3年自由	7	1	1	5
	3年課題	12	1	3	8
	4年自由	10	1	2	7
	4年課題	8	0	3	5
小学校・高	自由	20	2	4	14
小学校・高	課題	12	1	3	8
	5年自由	10	1	1	8
	5年課題	6	0	1	5
	6年自由	10	1	3	6
	6年課題	6	1	2	3
<b>小学校</b>		<b>110</b>	<b>9</b>	<b>25</b>	<b>76</b>
中学校	自由	50	3	8	39
中学校	課題	10	0	6	3
	中1自由	18	2	3	13
	中1課題	0	0	0	0
	中2自由	16	0	2	14
	中2課題	9	0	6	3
	中3自由	16	1	3	12
	中3課題	1	0	0	0
<b>中学校</b>		<b>60</b>	<b>3</b>	<b>14</b>	<b>42</b>